



2023年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年4月14日

上場会社名 ワンダープラネット株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4199 URL https://wonderpla.net/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 常川 友樹
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 佐藤 彰紀 TEL 052-265-8792
 四半期報告書提出予定日 2023年4月14日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2023年8月期第2四半期の業績（2022年9月1日～2023年2月28日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年8月期第2四半期	1,629	15.6	△320	-	△334	-	△349	-
2022年8月期第2四半期	1,409	△25.1	△270	-	△286	-	△202	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年8月期第2四半期	△154.08	-
2022年8月期第2四半期	△93.75	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年8月期第2四半期	2,172	511	23.6
2022年8月期	2,999	427	14.3

(参考) 自己資本 2023年8月期第2四半期 511百万円 2022年8月期 427百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年8月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2023年8月期	-	0.00	-	-	-
2023年8月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年8月期の業績予想（2022年9月1日～2023年8月31日）

現時点で適正かつ合理的な業績予想の算定が困難であるため記載しておりません。当該理由等につきましては、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年8月期2Q	2,557,912株	2022年8月期	2,200,412株
② 期末自己株式数	2023年8月期2Q	48,632株	2022年8月期	48,632株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年8月期2Q	2,270,697株	2022年8月期2Q	2,155,962株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

決算補足説明資料は、本日TDnetで開示するとともに、当社ウェブサイトにも掲載する予定です。

また、2023年4月14日に機関投資家及びアナリスト向け決算説明会を開催する予定です。その模様（動画）及び説明内容（書き起こし）については、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報)	7
3. その他	7
継続企業の前提に関する重要事象等	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は「楽しいね!を、世界中の日常へ。」というミッションを掲げ、世界中の一人でも多くの人々の日常に、家族や友達と「楽しいね!」と笑いあえるひとときを届け、国・言語・文化・年齢・性別などあらゆる壁を越えて誰もが楽しめるプロダクト・サービスを創り、コミュニケーションを通じた「笑顔」を世界の隅々まで広げることを目指しております。

当社のエンターテインメントサービス事業につきましては、当社オリジナルタイトル「クラッシュフィーバー」(日本版・海外版)や「アリスフィクション」(世界同時運営)、LINE株式会社との協業タイトル「ジャンプチヒーローズ」(日本版・繁体字版)を配信しており、多くのユーザーに長期的に楽しんでいただける運営に取り組んでおります。

当第2四半期累計期間の売上高につきましては、2022年7月に配信開始した「アリスフィクション」の売上寄与に加え、「クラッシュフィーバー」が堅調に推移した結果、前年同期比で増収となりました。MAU(注1)の状況につきましては、「クラッシュフィーバー」は7.5周年イベント等が奏功し堅調な推移となりましたが、「ジャンプチヒーローズ」は2,100万ダウンロードキャンペーン、「アリスフィクション」はコラボイベントの効果を継続することができず減少推移となりました。

営業利益に関しましては、当第2四半期累計期間では損失を計上いたしました。中長期的な収益の拡大に向け、コンシューマー系ゲーム開発会社との共同事業による新規タイトルの開発(注2)にも前事業年度に引き続き取り組んでいる一方で、「アリスフィクション」を中心に既存タイトルの運営体制の見直しや最適化を進めることで外注費などの運営費削減に取り組んだほか、全社的に費用削減に取り組んだことで、当第2四半期会計期間においては売上原価・販売費及び一般管理費が第1四半期会計期間に比べて減少し、営業損失額は縮小しております。なお、2023年1月に実施した第三者割当の株式交付費用8,975千円の発生等により、第1四半期会計期間に比べて営業外費用が増加しております。

この結果、当第2四半期累計期間の売上高は1,629,907千円(前年同期比15.6%増)、営業損失は320,804千円(前年同期は営業損失270,755千円)、経常損失は334,118千円(前年同期は経常損失286,747千円)、四半期純損失は349,878千円(前年同期は四半期純損失202,113千円)となりました。

なお、当社はエンターテインメントサービス事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

(注) 1. Monthly Active Userの略。月に1回以上アプリを利用したユーザー数。(集計に受託サービスは除く。)

2. 当社では、会計上、アプリ・ゲームの新規開発費用を貸借対照表に資産計上せず期間費用としており、ソフトウェアを資産計上しないことで、将来の減損リスクが低減されていると認識しております。

(2) 財政状態に関する説明

①財政状態の分析

(資産)

当第2四半期会計期間末の流動資産は1,457,178千円となり、前事業年度末に比べ775,500千円減少しました。これは主に、前第4四半期会計期間に比べ売上高が減少していることにより売掛金が374,305千円減少したことや、2022年9月に社債の発行200,000千円、2023年1月に第三者割当による新株式の発行427,700千円を行いました。また、「アリスフィクション」のリリース直後の広告投資等の未払金の支払いを第1四半期会計期間に行ったこと、また、四半期純損失の計上により現金及び預金が292,992千円減少したことによるものであります。

固定資産は714,823千円となり、前事業年度末に比べ52,086千円減少しました。これは主に、減価償却により運営権が34,999千円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は2,172,001千円となり、前事業年度末に比べ827,587千円減少しました。

(負債)

当第2四半期会計期間末の流動負債は990,009千円となり、前事業年度末に比べ830,450千円減少しました。これは主に、「アリスフィクション」のリリース直後の広告投資等により前第4四半期会計期間に増加した未払金の支払いを行ったことにより、未払金が809,830千円減少したことによるものであります。

固定負債は670,123千円となり、前事業年度末に比べ81,138千円減少しました。これは、1年内返済予定の長期借入金への振替により長期借入金が120,138千円減少したことや、財務体質の強化を図り、中長期的な事業成長に向けた必要資金を確保することを目的とした資金調達を実施したことにより、社債が200,000千円増加したものの、1年内償還予定の社債への振替により社債が161,000千円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は1,660,132千円となり、前事業年度末に比べ911,588千円減少しました。

(純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産は511,869千円となり、前事業年度末に比べ84,001千円増加しました。これは、四半期純損失の計上により、利益剰余金が349,878千円減少したものの、新規開発タイトルに係る人件費・外注費に充当することを目的とした第三者割当による新株式の発行及び新株予約権の行使により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ216,940千円増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ632,992千円減少し、570,507千円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とその要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、664,644千円（前年同期は355,417千円の使用）となりました。これは主に、売上債権の減少額374,305千円があったものの、未払金の減少額809,830千円、税引前四半期純損失の計上334,118千円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、365,654千円（前年同期は22,179千円の使用）となりました。これは主に、定期預金の預入による支出340,000千円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は、397,306千円（前年同期は373,037千円の獲得）となりました。これは、長期借入金の返済による支出128,479千円、社債の償還による支出97,000千円があったものの、株式の発行による収入424,904千円、社債の発行による収入197,880千円があったことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年8月期の業績予想につきましては、現時点で会社全体での合理的かつ信頼性のある業績予想の策定及び公表が困難であると考え、引き続き非開示としております。今後、期間の経過等により、適正かつ合理的な業績予想を行うことが可能になり次第、業績予想を速やかに開示することといたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年8月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,203,499	910,507
売掛金	818,672	444,366
その他	210,506	102,303
流動資産合計	2,232,678	1,457,178
固定資産		
有形固定資産	49,274	27,719
無形固定資産		
運営権	326,666	291,666
無形固定資産合計	326,666	291,666
投資その他の資産		
繰延税金資産	341,394	327,937
その他	49,574	67,499
投資その他の資産合計	390,969	395,437
固定資産合計	766,910	714,823
資産合計	2,999,589	2,172,001
負債の部		
流動負債		
買掛金	156,113	71,535
1年内償還予定の社債	194,000	258,000
1年内返済予定の長期借入金	248,617	240,276
未払法人税等	—	12,226
未払金	1,055,016	245,186
その他	166,712	162,786
流動負債合計	1,820,460	990,009
固定負債		
社債	326,000	365,000
長期借入金	425,261	305,123
固定負債合計	751,261	670,123
負債合計	2,571,721	1,660,132
純資産の部		
株主資本		
資本金	354,219	571,159
資本剰余金	961,512	1,178,452
利益剰余金	△790,896	△1,140,775
自己株式	△96,967	△96,967
株主資本合計	427,868	511,869
純資産合計	427,868	511,869
負債純資産合計	2,999,589	2,172,001

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年9月1日 至 2022年2月28日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)
売上高	1,409,391	1,629,907
売上原価	1,384,393	1,589,747
売上総利益	24,997	40,160
販売費及び一般管理費	295,752	360,964
営業損失(△)	△270,755	△320,804
営業外収益		
為替差益	—	452
補助金収入	340	—
還付加算金	43	666
ポイント還元収入	264	1,106
その他	34	200
営業外収益合計	683	2,426
営業外費用		
支払利息	1,504	3,374
社債利息	212	1,223
株式交付費	—	8,975
社債発行費	14,289	2,119
為替差損	97	—
その他	571	48
営業外費用合計	16,675	15,740
経常損失(△)	△286,747	△334,118
税引前四半期純損失(△)	△286,747	△334,118
法人税、住民税及び事業税	3,553	2,303
法人税等調整額	△88,188	13,456
法人税等合計	△84,634	15,760
四半期純損失(△)	△202,113	△349,878

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年9月1日 至 2022年2月28日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失(△)	△286,747	△334,118
減価償却費	5,427	58,620
賞与引当金の増減額(△は減少)	△4,984	—
受取利息及び受取配当金	△8	△6
支払利息及び社債利息	1,716	4,597
社債発行費	14,289	2,119
株式交付費	72	8,975
補助金収入	△340	—
ポイント還元収入	△264	△1,106
売上債権の増減額(△は増加)	53,308	374,305
未収入金の増減額(△は増加)	△28,971	693
仕入債務の増減額(△は減少)	43,745	△84,578
未払金の増減額(△は減少)	16,116	△809,830
前受金の増減額(△は減少)	△53,984	△29,189
その他	△35,944	116,801
小計	△276,567	△692,716
利息及び配当金の受取額	8	6
利息の支払額	△2,274	△4,464
補助金の受取額	340	—
ポイント還元金の受取額	264	1,106
法人税等の支払額	△77,188	△0
法人税等の還付額	—	31,424
営業活動によるキャッシュ・フロー	△355,417	△664,644
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△340,000
有形固定資産の取得による支出	△2,777	△2,065
敷金及び保証金の差入による支出	△19,402	△23,588
投資活動によるキャッシュ・フロー	△22,179	△365,654
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	100,000	—
長期借入金の返済による支出	△117,096	△128,479
社債の発行による収入	485,710	197,880
社債の償還による支出	—	△97,000
株式の発行による収入	11,928	424,904
自己株式の取得による支出	△99,883	—
配当金の支払額	△7,620	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	373,037	397,306
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△4,559	△632,992
現金及び現金同等物の期首残高	1,847,322	1,203,499
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,842,762	570,507

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年1月5日を払込期日とする第三者割当による新株式350,000株の発行により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ213,850千円増加しております。

また、当第2四半期累計期間において、新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ3,090千円増加しております。この結果、当第2四半期会計期間末において、資本金が571,159千円、資本剰余金が1,178,452千円となっております。

(セグメント情報)

I 前第2四半期累計期間(自 2021年9月1日 至 2022年2月28日)

当社はエンターテインメントサービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第2四半期累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)

当社はエンターテインメントサービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、2022年8月期において営業損失1,272,138千円を計上しており、当第2四半期会計期間においては、既存タイトルの運営体制の見直しや最適化を進めることで外注費などの運営費削減に取り組んだほか、全社的に費用削減に取り組んだことで第1四半期会計期間に比べ営業損失額は減少しているものの、当第2四半期累計期間において黒字化には至らず営業損失320,804千円を計上していることから、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせる事象が存在しております。

当社は、当該事象を解消または改善するため、第3四半期以降においても、既存タイトル運営に係る外注費や広告宣伝費等のコストの適正水準維持や一層の低減に努めます。また、コンシューマー系ゲーム開発会社との協業による新規タイトル開発により、中長期での収益獲得を目指す方針は変わらないものの、当該パートナーとの契約変更を行ったことで、短期かつ多額の費用支出を抑制することができる見込みです。これらの他にも受託案件の獲得による安定収入の確保や、東京オフィス移転を始めとする固定費削減も並行し、全社的な収益力強化への取り組みを継続します。

財務面では、2023年1月に実施した第三者割当による新株式の発行により427,700千円の資金調達を行い、財務基盤の安定性が強化されました。資金繰りについては、当面問題のない水準となっております。

以上により、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。